栃木県那須エリアに

移住・定住された

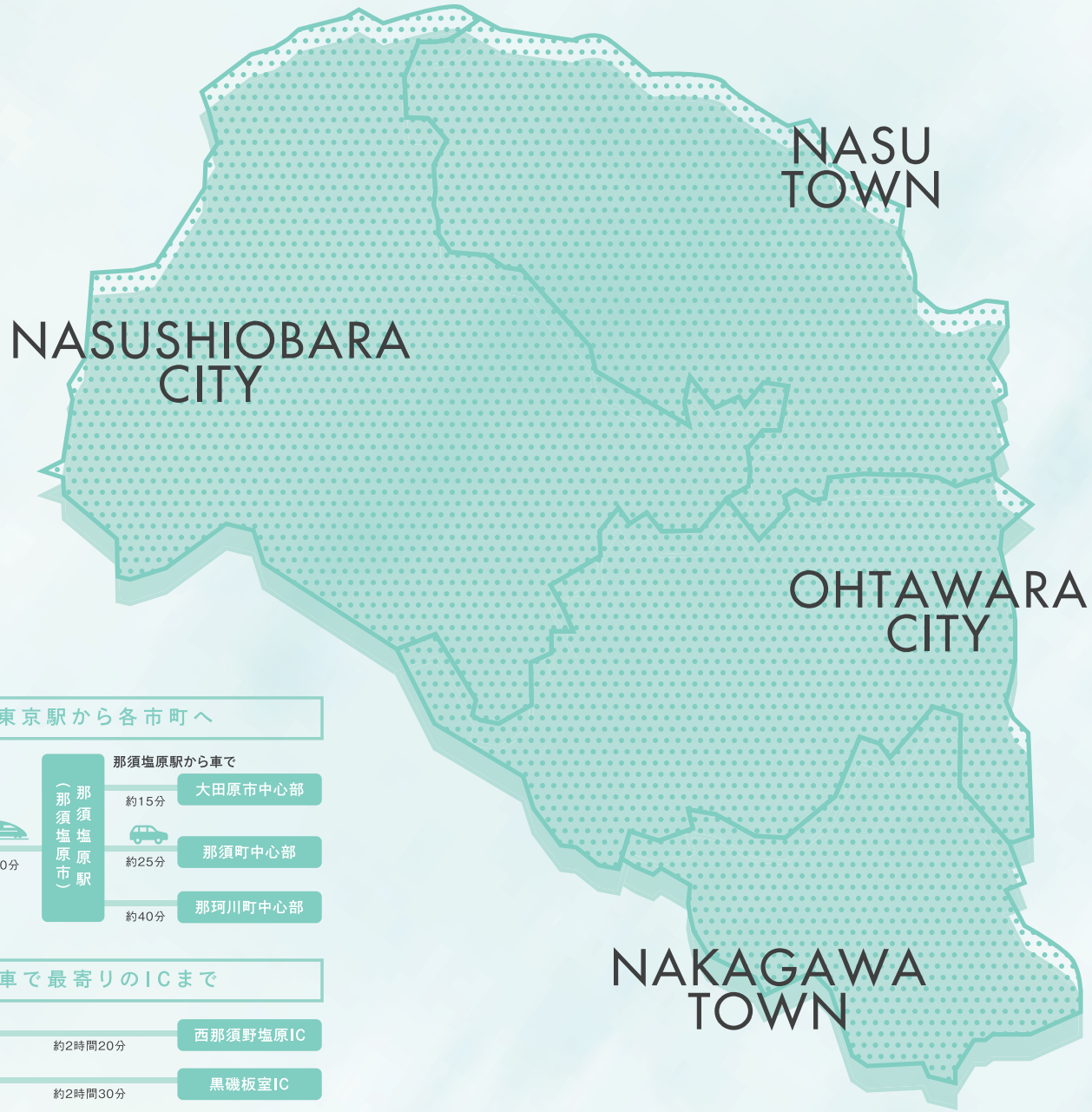
人々の素っぴん暮らし

# NASUっぴん

TOCHIGI

# NASU AREA MAP

「那須」と聞くと何をイメージするでしょうか。
高原、御用邸、温泉――。那須エリアの広さは東京23区の約2.4倍。
広大なエリアには、たくさんの魅力が溢れています。
ここで暮らせば、あなただけの、とっておきの魅力が見つかります。




## 東京駅から各市町へ

東京駅から新幹線で 約70分

那須塩原駅（那須塩原市）

那須塩原駅から車で

- 約15分 大田原市中心部
- 約25分 那須町中心部
- 約40分 那珂川町中心部

## 車で最寄りのICまで

東京

- 約2時間20分 西那須野塩原IC
- 約2時間30分 黒磯板室IC
- 約2時間45分 那須IC
- 約2時間 矢板IC

# PEOPLE LIVING IN NASU AREA


NASUSHIOBARA CITY
**那須塩原市**
P03-06

**本間 紀史さん**
IT 技術者

OHTAWARA CITY
**大田原市**
P07-10

**菊池 大介さん**
有機農家

NASU TOWN
**那須町**
P11-14

**坂元 一雅さん**
手打ち蕎麦「雅山」店主

NAKAGAWA TOWN
**那珂川町**
P15-18

**ナタリー・ラーセンさん**
飯塚邸コンシェルジュ

**各市町インフォメーション**
P19-22

NASUSHIOBARA CITY

# 那須塩原市

東京まで約70分で行ける立地を生かして、仕事の日は新幹線通勤&テレワーク。そして週末は家族でキャンプや温泉へ。都会の便利さは失いたくないけれど、地方でのんびり過ごしたい子育て世代の方の移住が増えています。外から来る方にオープンで優しい人柄の方が多く、温かく迎え入れてもらいやすい地域です。

## 継続したい人たちが生活リズムを変えずに愉しめる暮らし

PROFILE

本間 紀史 さん

40代

IT技術者

インタビュー動画はこちら

# 東京の仕事
# リモートワークの仕事を

TRIGGER　那須塩原市への移住のきっかけ

## 海外から帰国が決まり、家族で移住を検討

本間さんは、生まれ育った大田原市で高校卒業まで過ごし、大学進学とともに上京。東京とベトナムで生活をしたのちに、38歳のときに家族で那須塩原市に移住しました。
仕事先のベトナムから帰国が決まったことを機に、移住を考えたという本間さん。

「子どももいて東京の仕事も続ける予定だったので、以前住んでいた世田谷にするか、実家近くに住むか、まずは新幹線通勤が可能かを実家に泊まりながら試して検討した」といいます。特に問題なく生活ができると確信し、家族で移住生活をスタートさせました。

DECISIVE FACTOR　那須塩原市への移住の決め手

## 新幹線通勤で都内での仕事を継続できる

那須塩原市に移住し、東京での仕事を継続しながらの生活を実現した本間さん。那須塩原市を移住先として選択した決め手は、「都内へ新幹線通勤がしやすい場所だったこと」です。「仕事が夜遅くまでになったり、仕事終わりに友人たちとご飯を食べたりすることもあります。

そういったことを考慮して、駅から徒歩圏内に自宅があるほうが便利だという思いがあった」という本間さんは、希望を叶えられる那須塩原市を移住先に決めました。

## TIME SCHEDULE

| ON | OFF |
|---|---|
| 07:30 起床 | 08:30 起床 |
| 08:00 朝食<br>ウォーキング<br>ガーデニング | 09:00 朝食<br>ウォーキング<br>ガーデニング |
| 09:30 仕事（在宅ワーク） | 10:30 土曜日は<br>那須塩原市図書館 or<br>大田原市立図書館へ |
| 12:30 昼食 | 12:00 昼食 |
| 13:30 仕事（在宅ワーク） | 13:00 自由時間<br>ガーデニング<br>DIY |
| 19:30 夕食 | 17:30 息子の習い事のお迎え<br>夕食準備 |
| 20:30 自由時間<br>ポーチでお酒を飲んだり | 21:00 自由時間<br>庭でBBQをしながら<br>お酒を飲んだり |
| 00:00 就寝 | 00:30 就寝 |

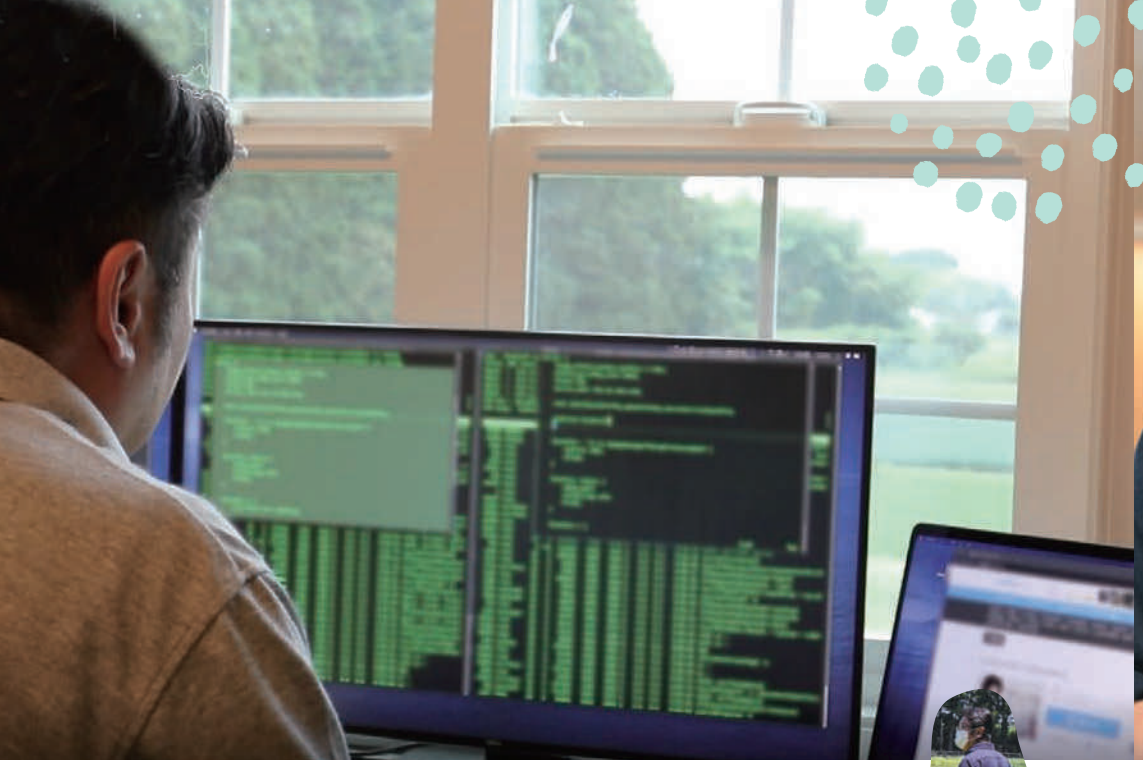
# 子どもも大人ものびのび過ごす、旅先にいるような休日

休日の本間さん家族は、自由な暮らしぶり。とある休日は、朝8時過ぎから森の中で朝ごはんを食べ、日中は子どもたちと遊園地で遊び、温泉に入って帰宅して、夜7時にはお酒を片手に庭でバーベキューをして眠る—まるで旅行先にいるかのようにのびのびとした休日を過ごしています。子どもたちは東京とさほど変わらず、ゲームに没頭するときもあれば、広大な公園でのびのびと体を動かすこともあります。

本間さん自身は、「那須塩原市図書館 みるる」など近隣の図書館で趣味の園芸に関する本を借りたり、ホームセンターで園芸の道具を揃えたり。本間さんは地方と都会の暮らしを経験して、改めて何気ない景色や心身が健やかでいられる暮らしが贅沢だと感じるようになり、子どもたちにも将来の選択肢となるように、地方と都会での暮らしを味わってほしいと考えています。

## オン・オフの切り替えがしやすい

IT業界でエンジニアとして働く本間さんは、日中、座りっぱなしで作業をすることが多く、仕事と休憩の切り替えがしやすい環境についてありがたいと話します。「最近はリモートワークも増え、自宅での作業も多くなりました。休憩したいときに外に出れば目の前には豊かな緑が広がっていて、庭で土いじりなんかもできてしまう。オンから瞬時にオフに切り替えができてリフレッシュできます。最高の環境です」と本間さん。最近は、訪ねてくる友人たちに木の俣川の清流を眺めながらワーケーションをしていることを伝えると羨ましがられることもあるそうです。



## 生活リズムを変えずにいられる利便性の良さ

移住して約6年が経つ本間さんは、生活環境について「困ったことはない」と話します。移住は、生活環境の変化がハードルになる方もいるかもしれません。しかし那須塩原市なら「住む場所だけ変えるイメージ」といいます。「通勤時間は、世田谷区にいた頃も職場まで1時間程度で、現在も東京駅まで約70分で到着できるので意外と変わらない。家賃と交通費を足して東京と同じくらいなら、支出面もクリアできます。都内で引越しするのと変わらない感覚です」と話す本間さん。新幹線が事故などで止まるのは唯一の困りごとと話しますが、都内での生活リズムと変わらない暮らしを実現しています。

## 自然とまちに目が向くようになる、懐の深さが魅力

那須塩原市は、日本の高度成長期に工業が発達して工場の誘致によって雇用が生まれ、市の周辺にさまざまな人たちがやってきたという歴史的な背景もあり、「外から来る人たちにオープンで優しいまち」と本間さんは話します。都会からいきなり移住をしても、さまざまなコミュニティで温かく迎えてもらえて溶け込みやすく、「懐が深い人たちが多いですね」と那須塩原市に住む人々の魅力を感じています。

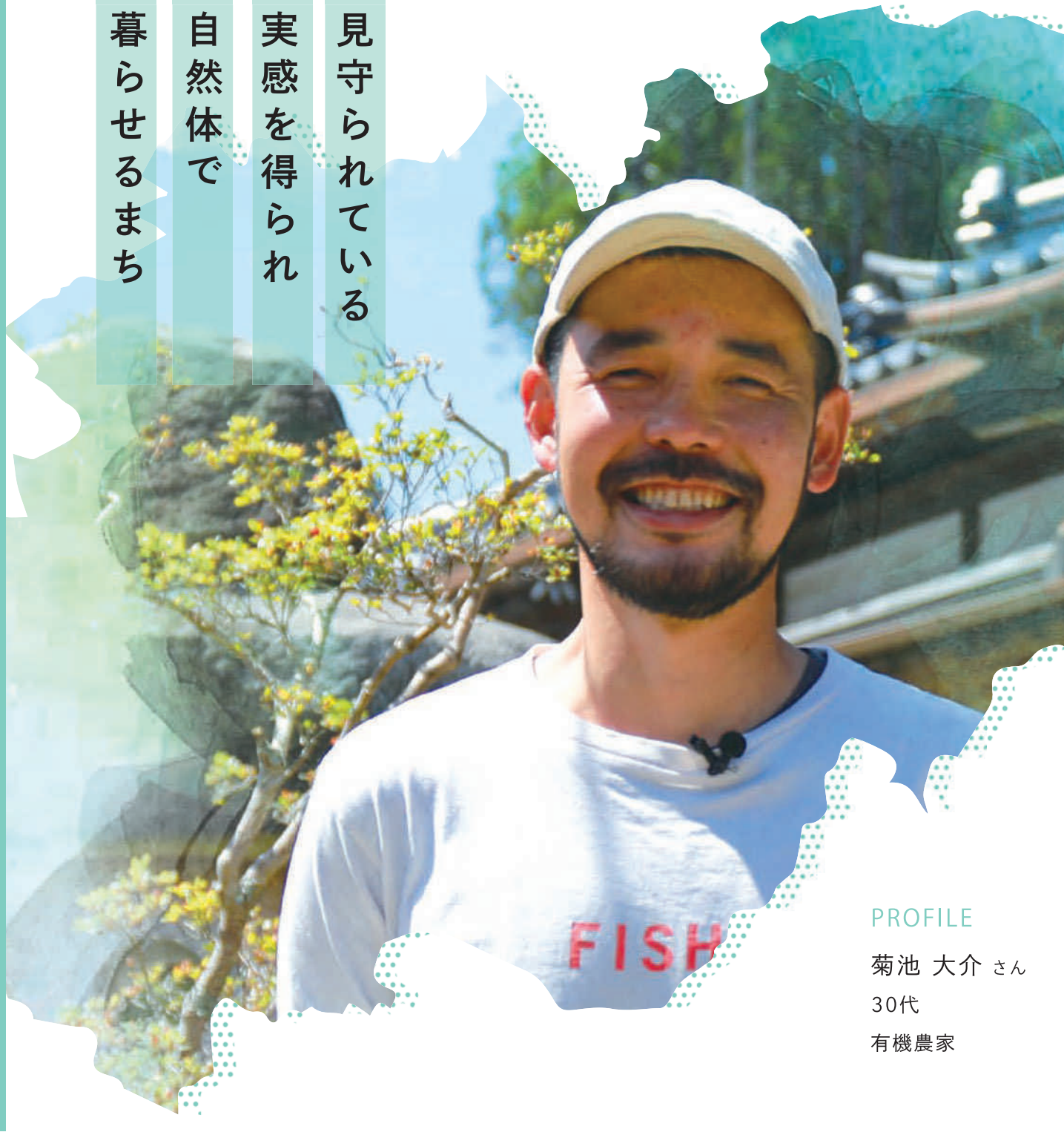
東京のように人口が多くないからこそ、地元への愛着が湧き、自分たちの手で何かしたいと思えるようになったという本間さん。今後は自身のITに関する知識を活かし、中高生たちにITの知識を教えてあげられるようなボランティアスクールを企画したいと考えています。

OHTAWARA CITY

# 大田原市

自然豊かな環境で子育てしたいというご家族での移住が増えてきており、子どもたちの笑顔があふれています。面倒見の良い、シャイだけど優しい人柄の方が多く、地域ごとの交流も非常に盛んな地域です。

## 見守られている
## 実感を得られ
## 自然体で
## 暮らせるまち




PROFILE

菊池 大介 さん

30代

有機農家

インタビュー
動画はこちら

TRIGGER　大田原市への移住のきっかけ

## 働きたい場所が地元にあった

「地元に対するネガティブな感情は無かった」という大田原市の菊池さんですが、経営学を学ぶために、東京の大学に進学しました。
アパレルや雑貨販売の仕事に就くことを希望していた菊池さんは、大学卒業後、地元にUターンし、那須塩原市の「SHOZO」に就職しました。

10年程アパレルの仕事に従事し、同僚だった今の奥様と出会い、結婚した後、2016年から市内にある家業の農家を継いで、奥様とともに有機農業を営んでいます。

DECISIVE FACTOR　大田原市への移住の決め手

## 「生きる力」をつける

元々は農業を継ぐ気がなかった菊池さんでしたが、食べ物の知識も豊富だった奥様の影響もあり、次第に自分たちが食べるものに対して意識が向くようになっていきました。さらには、東日本大震災や豪雨など自然災害の経験をした際、不測の事態でも状況を見極め農作業を続ける両親の姿を見て、「農業は生きていく力をつけることができるものだと実感した」といいます。こうして農業に向き合うことを決め、家業を継ぐために勤めていた会社を退職した菊池さん夫妻。半年間、奥様とともに農業の勉強も兼ねてカナダを訪れ、農家への訪問や現地の有機農家で働かせてもらう経験をしました。帰国後、市の制度を活用して有機農家で1年間の農業研修を経て、家業に入りました。

## TIME SCHEDULE

| ON | OFF |
|---|---|
| 04:00 起床 | 06:00 起床 |
| 05:00 仕事 出荷がある日は収穫 | 07:00 朝食 |
| 07:00 朝食 | 08:00 掃除・家事 |
| 08:00 仕事 袋詰め・発送など | 子どもと一緒に家で遊んだり公園で遊んだり友人宅へ行ったり那須方面に遊びに行ったり |
| 12:00 昼食・昼寝 | |
| 13:00 仕事 | |
| 19:00 夕食 | 19:00 夕食 |
| 22:00 就寝 | 22:00 就寝 |

# 自然と向き合う農業のある暮らし

研修先の農家さんから「有機農業を選択した思いをお聞きしたり、自然との関わり方を学べたのはよかった」と振り返る菊池さん。現在は、奥様とともに有機農家として農業をしている中で、「農業は自営業であるからこそ、自分次第で良くも悪くも結果が出るので、面白いしやりがいがあります」と力強く話します。外で体を動かす作業は自分の性に合っているという菊池さんは、技術や体力的な苦労はありますが、毎年、トライアンドエラーを繰り返しながら、農業のある暮らしを楽しんでいます。自然と向き合い、自分たちで工夫をしながら生活を豊かにしていきたい人にとって農業は向いているのかもしれません。

## 大人たちが見守り合う子育て環境

菊池さんは子育てや生活環境について「あえて不満をいうなら、海が近くにないことくらいですかね（笑）」というくらい特に困りごとはないようです。子どもたちが一歩外に出れば、市内で散歩しながらカエルや虫を発見したり、広い公園で自由に駆け回ることができたりと、まちの中は子どもたちが興味を抱けるネタの宝庫です。さらに、子どもより大人の数が多い大田原市では、同世代の子どもを育てる家族の存在や日常的に挨拶を交わす近所の人たちがいて、「遊びに行く我が子を送り出しても、地域の人たちが見守ってくれているという安心感がある」と菊池さんはいいます。

## 静かで豊かな生活ができる、絶妙な位置にあるまち

菊池さんは「僕は、かなり音に敏感で、静かな場所を好みます。農作業をしていて、風の音だけが聞こえたり、畑にいると車の音すら聞こえてこないこともあります。夜にカエルの鳴き声がうるさいときはありますけど(笑)。静かで落ち着いた場所で仕事ができるのは幸せです。」といい、大田原市の魅力に「静かであること」を挙げます。
また、「那須エリアへの近さ」も菊池さんの思う魅力の一つです。「買う物にも困らないですし、きれいな景色も含め、図書館や公園などの公共施設、温泉などが近い。生活に必要なものが手に入り、やりたいことが手軽にできます。」と菊池さんは話します。
東京で暮らしていた時のように好きなアーティストのライブを頻繁に見に行く機会は減りましたが、大田原市は穏やかな時間の流れの中で自然体で暮らせる、絶妙な位置にあるまちです。

## 地域の人たちと関わり、面白い人たちと刺激ある日常

大田原市を含めた那須エリアの印象として菊池さんは、「移住者が増え、面白い人たちが集まってきている。」と話します。プロのドラマーや那須エリアが好きで移住して何十年も住んでいる方など増えていく個性豊かでユニークな移住者たちとの交流を通じて、菊池さん自身も新たな刺激を受けて生活を楽しんでいます。
また、「地域のしがらみの強さより、地域の人たちが若い人たちに興味を持って受け入れる雰囲気はあるので、地域の人たちと関わっていくことが大切。」と溶け込むコツを話します。
昔と比較して、よそ者を受け入れない閉鎖的な雰囲気はなくなりつつあり、自ら一歩踏み出し関わっていけば、心強い味方が増え、人々の繋がりを感じられる日常を送ることができます。

NASU TOWN

# 那須町

別荘が多く、もともと開拓地という土地柄もあり、移住者が多く住んでいます。そのため移住者同士の交流が盛んに行われています。移住者に対してオープンで、優しく、親切な人柄の方が多い地域です。

## 新しい挑戦
## 自分らしいペースで
## 納得ができる
## セカンドライフを送る

PROFILE

坂元 一雅 さん

60代

手打ち蕎麦「雅山」店主

インタビュー
動画はこちら

TRIGGER　那須町への移住のきっかけ

## そば職人になるため移住

東京生まれ東京育ちの坂元さんは、CM制作会社などで長年にわたりCMプロデューサーとして活躍していました。定年後の人生を考え、周囲の後押しもあって趣味で10年以上やっていた手打ちそばの職人として蕎麦屋を新たにスタートさせることを決意したのをきっかけに、移住も含めて関東近郊で営業できる場所を探しました。そして、定年前の59歳で退職し、那須町に移住しました。

DECISIVE FACTOR　那須町への移住の決め手

## 周辺環境も最高で、お手ごろ価格の物件

関東近郊で60件近くの物件を見てきた中で、那須町を訪れた際に現在の店舗となる場所に出会いました。「350坪という広さ、周辺には川もあるし、紅葉時期は辺りが色づいてよい光景になる。立地がよく、手ごろな価格で購入できるというのもありスタートさせるには非常によい物件だと思った」と話す坂元さん。また、秋田県出身の奥様は暑い場所が苦手ということもあり、比較的涼しい那須の地で過ごし、勤務先の埼玉県にも通勤はできると判断し、那須町に移住しました。

## TIME SCHEDULE

| ON | | OFF | |
|---|---|---|---|
| 05:30 | 起床 | 06:00 | 起床 |
| 06:00 | そば打ち | 07:30 | 朝食 |
| 08:00 | 朝食 | 09:00 | 散歩 |
| 09:00 | 仕込み | 12:00 | 昼食 |
| 11:00 | 開店 | 13:00 | 仕込み・家事 |
| 15:00 | 閉店・昼食 | 16:00 | 入浴（温泉へ） |
| 15:30 | 片付け・翌日仕込み | 18:30 | 夕食・伝票整理 |
| 18:30 | 夕食 | 22:00 | 就寝 |
| 20:00 | 入浴 | | |
| 22:00 | 就寝 | | |

# 不便さ以上に、深呼吸ができる暮らしが魅力

移住して、予想以上に買い物をする場所が限定されていることや夜営業の飲食店の少なさに不便さや大変さを感じているようです。「道具が揃う大型店は少ないし、地元の人は夜に自炊が多いので、蕎麦屋を営業しても費用対効果がよくないのは予想と違っていましたね」と話す坂元さん。医療機関も近隣市に行き、学校も少ないため「子育て世代がいきなり都市部から移住するよりも、新たな地でスローライフを送りたいと考える人たちにこそ向いている場所ではないか」といいます。坂元さんは「夏の夜はエアコンをつけずに過ごせるし、車で20分程の距離に20カ所近くの温泉がある。自然の中にいられる環境は最高です」と嬉しそうに話します。東京の友人から羨望の的になることもあり、多少の不便さは感じつつも、標高650mで深呼吸ができる暮らしに満足しています。

## お試し移住をしながら、少しずつ移住準備ができる

那須町を選んだ坂元さんですが、移住先で未経験で飲食店経営をすることに不安を覚えた際に、那須町に知人などがおらず「相談できる那須町移住定住支援コーディネーターの存在はありがたかった」と話します。当時、東京にマンションがありすぐに移住ができなかったため、コーディネーターから移住促進住宅の紹介を受け、実際に那須町のアパートでお試し生活をしました。住むイメージができた坂元さんは、マンションを売却し、体験した住宅に住み続ける形で、元々和食店だった物件を半分店舗、半分自宅に改装していきました。無事に蕎麦屋をオープンさせ、平日は坂元さんが一人で切り盛りし、土日は埼玉県に単身赴任している奥様が手伝いに来る形で営業をしています。

## 仕事も趣味も、思いっきり楽しむ

趣味で約10年、蕎麦打ちをしていた坂元さんでしたが、実際に蕎麦屋の経営を始めてみると「開店から2年程は、365日働いたといっても過言ではないくらい生活の中心が蕎麦だった」と飲食店経営の大変さを痛感する日々が続いたと言います。次第にお店の運営にも慣れて生活リズムが掴めるようになった頃から、週2日の定休日を設けられるようになりました。繁忙期の休日は食材の仕入れや仕込み、閑散期の1、2月は知人たちとのゴルフや所有するキャンピングカーで妻や仲間たちとキャンプに出かけたりとリフレッシュできるようになっていきました。ゆったりとした生活の中で、趣味から始まった蕎麦屋そして奥様や友人たちとの時間を充実させてセカンドライフを楽しんでいます。

## 近くのお店から、輪が広がっていく

家族や知人がいない縁もゆかりもなかった地に移住すると、些細なことでも相談できる仲間がいるのはきっと心強いでしょう。「何気なく地元の人たちと会話をすると、思った以上に移住者との出会いが多い」と話す坂元さんは、地元の仲間づくりのために近隣のお店に訪れる時間を大切に、住民の人たちと交流をしながら少しずつ知り合いを増やしています。
つい先日も、キャンプ仲間が那須に別荘を購入して、愛犬とともに移住してきた話を聞いたのだそう。自身の店舗にもテラス席にペット同伴ができるようにしていて、「ペットと一緒に快適に暮らすのにいい場所なんだな」と改めて町の良さに気づかされたりしながら、移住者同士の交流から少しずつ地元の人たちとの輪を広げています。

NAKAGAWA TOWN

# 那珂川町

豊かな自然環境に恵まれ、温泉や美術館もあり、ゆっくりとした時間を過ごすことができます。
移住者と地元住民らが協力したイベントやマルシェが開催されるなど、“なかがわぐらし”を楽しみながら生活している人が多い地域です。



PROFILE

ナタリー・ラーセン さん
40代
飯塚邸コンシェルジュ

インタビュー動画はこちら

## 自然に包まれる ゆるやかな暮らし

# 人との近さを実感しながら

TRIGGER　那珂川町への移住のきっかけ

## 由緒あるホテルのコンシェルジュになる

那珂川町に移住する以前は、東京に3年程住んでいたというナタリー夫妻。オーストラリアの田舎町出身のナタリーさんは、ホテル勤務をしながら都会での生活を楽しんでいましたが、次第に「自然に近いところで生活したい」という思いが強くなっていきました。地方暮らしを視野に、外国人向け求人サイト「ガイジンポット」で仕事先を探していたところ、有形文化財ホテル「飯塚邸」のスタッフ募集を見つけて応募し、それまでの経験を買われて採用となったことがきっかけで那珂川町へ移住することになりました。

DECISIVE FACTOR　那珂川町への移住の決め手

## 故郷のように、心がほっとできる場所

那珂川町に初めて訪れたのは、ナタリーさんの採用が決まった後のことでした。想像以上に小さなまちと感じたというナタリー夫妻ですが、那珂川の清流を眺められる「高瀬観光やな」やレトロ感ある馬頭商店街に立ち寄ったり、蕎麦屋で食事をしたりして、町なかを満喫していきました。大谷石で出来た立派な蔵が多いことや、豊かな田園風景も広がっていて「どこにいてもほっとする気持ちになった」という夫妻は、故郷のオーストラリアを思い出したのでしょう。自然に近いところで生活ができる点に魅力を感じ、移住を決意しました。

## TIME SCHEDULE

| ON | | OFF | |
|---|---|---|---|
| 06:30 | 起床 | 07:30 | 起床 |
| 07:00 | 朝食 | 08:00 | 朝食 |
| 08:00 | 出勤（お客様対応）<br>朝食サービス<br>チェックアウト対応<br>事務作業など | 09:00 | 家事 |
| 12:00 | 昼食 | 11:00 | お出かけ |
| 13:00 | お部屋の点検<br>SNS 発信<br>チェックイン対応 | 12:00 | 昼食（外でランチ） |
| 17:00 | 退勤 | 13:00 | 自由時間<br>散歩・お買い物 |
| 18:30 | 夕食 | 18:00 | 夕食 |
| 19:30 | 入浴 | 19:30 | 入浴 |
| 20:30 | 自由時間 | 20:30 | 自由時間 |
| 22:00 | 就寝 | 22:00 | 就寝 |

# 人のあたたかさを実感する日々

## 休日は自然散策を楽しむ

ナタリー夫妻は休日に「冒険」をすることを楽しんでいるのだそうです。散歩コースのおすすめスポットは「馬頭公園」。地元のマルシェで購入したゴザを持参してランチをしたり、お昼寝をしたり―町内だけでなく、大田原市や那須塩原市などにも足を運び、山林を散策しながら道の先にどんな光景が広がっているかワクワクしながら町なかを散策するのが、夫婦の共通の楽しみです。休日はあえて外食をしていることが多く、コンシェルジュとして働くナタリーさんにとって、気になったお店に訪れることで、お客様との会話の盛り上がりにもつながっているようです。徒歩圏内で自然を満喫できるということが、ナタリー夫妻にとって心地よい暮らしにつながっています。

那珂川町に縁もゆかりもなかったナタリー夫妻は、東京からレンタルのトラック1台でやってきました。引越し当日は、「飯塚邸」のスタッフや地元住民たちが荷下ろし作業を手伝ってくれ、町の人たちの優しさに触れて感動したといいます。「小さなまちだからこそ、地元の方たちはとても親切でフレンドリーです。引越した日に飯塚邸に宿泊させてもらったり、地元の方たちが田舎料理を出して歓迎会をしてくれました。すぐにアットホームな気分になり移住してよかったなと思いました」とナタリー夫妻は、那珂川町の人のぬくもりを実感しながらゆったりと暮らしています。縁もゆかりもない場所への移住に抵抗がある人でも、きっとすぐに溶け込める雰囲気が那珂川町にはあります。

## 仕事を通して、那珂川町の住民になれた

「好きな仕事を続けることができて嬉しい」と話すナタリーさんは、以前からお客様と触れ合う仕事が好きで、「飯塚邸」の仕事を通して、充実感を得ながら過ごしています。那珂川町に来る目的を聞いたり、おすすめの観光地や過ごし方をご案内しながら、お客様との会話を楽しみ、ゆっくりと仕事ができていると感じています。「移住から1年半程しか経っていないですが、すぐに那珂川町の住民になれた気がします」と話し、「飯塚邸」での仕事を通して、お客様との触れ合いだけでなく那珂川町の人たちとも関係を築くことができ、那珂川町での暮らしに慣れてきているようです。

## 静かであることがストレスにならない日常

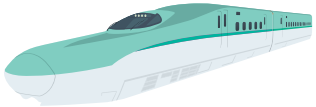
那珂川町は「移動するなら車がないと公共交通機関だけでは少々不便なときもある」とナタリーさん。また、都会と比較して飲食店などのお店の数も少なく、営業時間が短いというのはありつつも「基本的に生活が困ることはないですよ」と話します。「閉店時間は早いけど、私たちは早くに休んでしまうから大丈夫ですし、スーパーなども徒歩で行ける距離にあるので問題ありません。電車は混雑しないし、騒音もないから静かでストレスにならないですよ」と静かであることがメリットと捉えています。ご主人としては「ベジタリアン向けや洋食などのお店が増えたら嬉しい」とちょっとした希望はあるそうですが、基本的に生活面で困ることはなく、あっという間に那珂川町での暮らしに馴染んでいます。

NASUSHIOBARA CITY
那須塩原市

NASUSHIOBARA CITY POINT

# イラストで見る那須塩原市

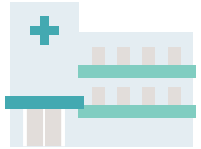
## 東京まで新幹線で



**約70分**

那須塩原駅から乗り換えなしで東京まで

## 病院の数



**52施設**

うち100床以上の病院は4施設

## アクティビティの数

**10種類以上**

カヌー&サップ、パラグライダー、スノーシューなど

## 温泉の泉質

**6種類**

国内に存在する10種類のうち6種類が楽しめる

## 那須塩原市の気候

高原性の冷涼な気候。このため酪農が盛んで、生乳生産量本州一。降水量は夏季に多く、冬季に少ない。朝夕の冷え込みが厳しく、冬場はスタッドレスタイヤが必需品。災害は非常に少ない地域です。

## 那須塩原市のくらし

黒磯駅、那須塩原駅、西那須野駅を中心に3つの市街地を形成。大型複合スーパーやコンビニのみならず、野菜、果物、米などの直売所の他、カフェや美味しいベーカリーなど飲食店も豊富。郊外にはアウトレットもあり、日常生活には困りません。病院も多くあり、安心して暮らせます。

## 那須塩原市の観光

塩原温泉、板室温泉など温泉が多く、自然を活かしたアクティビティ、アウトドア施設も市街地から程近くにあり、カフェ巡りや市立図書館「みるる」、市営ホースガーデンなどのスポットも人気。週末は観光地でのナチュラルライフを満喫できます。

## 移住者サポート

● 移住関連補助金
新幹線定期券購入補助金/移住応援補助金 / 移住支援助成金など
●子育て関連支援
こども医療費の助成/子育てサロン/ファミリーサポートセンター/子育て相談センターの設置など

掲載内容に関する詳細や、その他サポートについては、下記 お問合せ先または、那須塩原市ホームページへ

**お問合せ先**

那須塩原市移住促進センター
那須塩原市大原間西1丁目11-10（市民活動センター内） ☎0287-73-5742

那須塩原市移住定住HP

移住促進センターInstagram

OHTAWARA
CITY
大田原市

# OHTAWARA CITY POINT
## イラストで見る大田原市

### 幼稚園・保育園の数

**25施設**

保育園・認定こども園・
小規模保育施設を合算

### 中心市街地から半径2キロメートル以内のスーパーの数

**11店舗**

コンビニ・ドラックストアー
も多く買い物に便利

### 環境省星空観測日本一

**4冠**

夜空が星の観察に
適していた場所

### とうがらし生産量全国

**1位**

とうがらしの郷として
様々なとうがらし料理も開発

### 大田原市の気候

栃木県の北東部に位置し、夏と冬、朝夕の寒暖の差がある内陸性の気候。冬は降水量が少なく「那須おろし」と呼ばれる北風が吹くため、より寒さを感じます。雪はほとんど積もることがありません。自然災害が少なく地震に強い地域です。

### 大田原市のくらし

中心市街地には商業施設や都市機能が集まり、食料品や日用品などの買い物には困りません。また、国県の行政機関や小・中・高・大学が集約されており、医療・福祉も充実しています。生活のしやすさと自然環境の良さを兼ね備えた“ほどよい田舎”です。

### 大田原市の観光

県内唯一の水族館「なかがわ水遊園」、世界中の昆虫を展示する「自然観察館」、県内随一の大型望遠鏡を有する「天文館」、子育て施設とマルシェの複合施設「トコトコ大田原」など、お子様と一緒にリーズナブルに楽しめるスポットが充実しています。

### 移住者サポート

子育て関連のサポートが充実しています。
●子育て支援制度・手当
幼児教育・保育の無償化/子宝祝金制度/児童扶養手当て/児童手当など
●子ども医療費助成
18歳までのお子様を対象とした医療費の助成
●子育て支援施設
一時保育センター/つどいの広場・子育て支援センター/放課後児童クラブなど

掲載内容に関する詳細や、その他サポートについては、下記 お問合せ先または、大田原市ホームページへ

**お問合せ先**

大田原市移住・定住交流サロン　大田原市役所総合政策部政策推進課
大田原市本町1-4-1大田原市役所A別館2階　☎0287-23-8794

大田原市
移住定住HP

大田原市子育て
ガイドブック

NASU
TOWN
# 那須町

## NASU TOWN POINT
## イラストで見る那須町

### 人口千人あたりの保有自動車数

**約1020台**

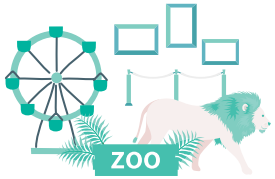
生活には車が
必須アイテム

### 那須温泉開湯

**1390年**

栃木県内でも最も歴史がある、
豊かな温泉地

### レジャー施設の数




**約46施設**

様々なレジャーを
楽しめる施設が多数

### 1年間の観光客入込み数

**約340万人**

多くの方が訪れる
リゾート地

---

### 那須町の気候

栃木県の北部に位置し、北西部は那須連山の主峰、標高1,915mの茶臼岳がそびえ、その麓には大リゾート地の那須高原があります。比較的冷涼で過ごしやすい気候。雪は全域で降り、特に北部の山間部に行くほど積雪が多くなる地域です。

### 那須町のくらし

スーパーやコンビニがあるほか、大型の道の駅が2施設あり、採れたての新鮮野菜などが購入できます。また那須塩原市、大田原市など周辺地域へのアクセスもしやすいため生活には困りません。豊かな自然に囲まれており、騒音など周りも気にならず、のびのびと子育てができます。

### 那須町の観光

「ロイヤルリゾート那須」と呼ばれ、登山・ハイキング、ゴルフ、スキー、パラグライダー、キャンプ、乗馬、テニス、釣りなど多彩なスポーツ・レジャーを楽しめるほか、美術館なども豊富。開湯1390年以上の那須温泉郷など自然豊かなリラクゼーションスポットを満喫できます。

### 移住者サポート

●移住に役立つ支援制度
那須町移住定住促進住宅取得等補助金など
●町が運営する新婚子育て世帯向け住宅
ウイングビーナス
●子育て支援制度・手当て
子ども医療費助成/児童手当/妊産婦医療助成制度/出産育児一時金など

掲載内容に関する詳細や、その他サポートについては、下記 お問合せ先または、那須町ホームページへ

**お問合せ先**


那須町役場ふるさと定住課
那須町大字寺子丙3-13 ☎0287-72-6955

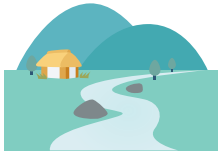

那須町
HP

那須町
移住定住HP

NAKAGAWA TOWN POINT

# イラストで見る那珂川町

## 「日本で最も美しい村」連合に栃木県内



**初加盟**

小砂（こいさご）地区が
2013年10月に加盟

## 那珂川町にある温泉施設

**11施設**

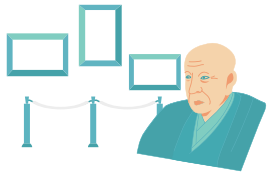
「美人の湯」と呼ばれる
馬頭温泉郷

## 温泉とらふぐ養殖の

**元祖**

その他、八溝ししまる、
八溝そばなどの名物が多数

## 美術館・資料館・史跡の数



**28施設**

歴史・文化を感じる
スポットが多数

## 那珂川町の気候

栃木県の東北東に位置し、典型的な内陸型の気候で、年間平均気温は13℃前後。寒暖の差はあるものの年間を通じて比較的温暖で過ごしやすい。夏は雷が多く、冬は「日光おろし、那須おろし」と呼ばれる強い風が吹く、雪は年間5日前後とほとんど積もることはない地域です。

## 那珂川町のくらし

県道52号線の一つ南側に並行して馬頭商店街があり、昭和レトロな街並みに精肉店や味噌屋、衣料品店、金物屋など昔ながらのお店が立ち並び、今も商売を営んでいます。

## 那珂川町の観光

関東随一の清流「那珂川」は、鮎釣りのメッカにもなっており、それを取り囲む里山が織り成す緑豊かな美しい自然と昔ながらの農村風景が広がる町。古墳や史跡、伝統的な祭りの他、温泉やゴルフ場、キャンプ場、美術館など、歴史・文化資源が豊富で、ゆとりある暮らしを満喫できます。

## 移住者サポート

●住宅支援制度・手当て
農ある田舎暮らし高手の里事業/八溝材を使用した新築住宅への補助/新婚生活支援補助金など
●子育て支援・手当て
こども医療費助成/妊産婦医療助成/育児パッケージ/ベビープログラムなど

掲載内容に関する詳細や、その他サポートについては、下記 お問合せ先または、那珂川町ホームページへ

**お問合せ先**

那珂川町企画財政課なかがわぐらし推進係
栃木県那須郡那珂川町馬頭555番地 ☎0287-92-1114

那珂川町
HP

那珂川町
移住定住HP

那須地域定住自立圏事務局
那須塩原市役所 企画部 企画政策課
〒325-8501 栃木県那須塩原市共懇社108番地2
☎0287-62-7106